

# JA 自己改革 ニュース

JAひすいでは、毎月「JA自己改革ニュース」を発行し地域の皆さんにJA自己改革の内容・進捗をお知らせしています

## JA自己改革の成果はどうやって測るの？

JA自己改革の成果は、JAの役職員が正・准組合員を訪問し、アンケート調査を実施することで測ります。JAの自己改革に期限はありませんが、第27回大会の実施期間が終わる2018年度がひとつの区切りとなります。そのため、組合員がどのように自己改革を「理解」し「評価」しているか、組合員の声を「見える化」しなくては次の段階に進めません。

そのため、JAグループでは初の取り組みとして、1000万人を超える正・准組合員を対象としたアンケート調査を検討しています。全JAの役職員が、正・准組合員を訪問。農産物の販売事業や生産資材の購買状況、営農指導への期待度や満足度、准組合員の事業利用度、総合事業の継続などについて組合員自身の意見を明らかにすることになります。

JAの役職員は、組合員に直接向き合って声を聴き、意見を交換します。JAの役職員にとっては、自らの言葉で組合員と対話する契機にもなります。アンケート調査で把握した改革の実績や評価をもとに、全国のJAは2019年度からのさらなる取り組みを検討し、次期中期計画に生かします。

# 「ヨモギの機械刈り取り実演会」開催！

JAひすいでは、毎年冬期間に乾燥ヨモギを加工し、もぐさ（お灸の原材料）を製造しています。国内で生産される高級もぐさは、その約90パーセントが上越地域で製造され、ヨモギは糸魚川において大切な地域資源と言えます。

しかし、お灸の需要が減っているという現状を受け、地元のヨモギ出荷者や市、県と協力しヨモギを食用として活用する研究を始めました。

6月13日（水）、「農業生産法人 株式会社あぐ里能生」様の協力を得て、営農部が初の試みとなる「ヨモギの機械刈り取り実演会」を開催しました。ヨモギを食用として活用するためには、栽培したヨモギの新芽をひとつひとつ手で摘まなければなりません。膨大な数の新芽を手作業で収穫するのはとても大変です。そこで、茶摘み用のバリカン機を使った刈り取り実演会を実施。実演の結果、バリカン機できちんと新芽を刈ることができました。今後は、乾燥させたヨモギを加工し、販売を進めていきます。



茶摘み用バリカン機を使用した  
ヨモギ新芽刈り取りの様子